

創立30周年記念事業について

平成元年3月1日

会長 大野 豊

当学会は、1960年4月22日に会員300名余をもって創立され、来る1990年に創立30周年を迎えることになりました。

現在、すでに会員3万名余を擁する、わが国有数の学会として活動しているのは、会員一人一人の努力と、関係官公庁、学協会ならびに産業界の絶大なご支援・ご協力によるものと、厚く感謝いたしております。

今後は、より高度な情報社会の実現に向けて、情報処理の学術・技術の進歩発展をはかる学会として、さらに大きな成長と内容の充実が期待されています。

ここに創立30周年を迎えるにあたり、情報処理の発展の軌跡を顧み、さらに将来の諸問題を展望し、21世紀に向かって、なお一層飛躍する基礎を固めていくため、下記の記念事業を計画、推進しつつあります。

つきましては、会員の皆さま方には、格別のご理解とご協力をいただき、各事業へ積極的に参加されることを期待しております。

30周年各記念事業のあらまし

(1) 国際会議の開催

今後の情報処理技術を展望したとき、その高度化は、人間を疎外するようなものであってはなりません。人間・機械間の調和がとれ、年少者から高齢者まで容易に受け入れることができ、より日常生活に密着したものとならなければなりません。

また、通信技術の進歩は世界をますます狭いものにしてきており、各国の協調により世界的に調和のとれた情報処理体系を発展させていくことが必要です。

このような環境にあって、わが国が世界、特に環太平洋域において果たすべき役割は増大してきています。

これらに対する当学会の姿勢を明示するとともに、世界への貢献の第一歩とするため、創立30周年を機会に21世紀を展望した情報処理国際会議を主催いたします。

会議名称: International Conference on Information Technology commemorating the 30th anniversary of The Information Processing Society of Japan (IPSJ)

: 情報処理学会創立30周年記念国際会議

会議略称: InfoJapan '90

会議テーマ: Information Technology Harmonizing with Society

会期・場所: 1990年10月1日(月)～5日(金) 京王プラザ

(2) 記念全国大会の実施

全国大会は毎年春秋2回開催しておりますが、とくに記念全国大会として、21世紀の情報処理研究を担う若手研究者を中心に、情報処理の進歩発展を目指した研究発表を行うとともに、記念公開講演会など、新しい企画を立案、開催いたします。

(3) 記念論文の公募

創立 20 周年記念論文公募の際は、54 論文の応募があり、わが国の情報処理研究の水準を示すとともに、とくに若手研究者に大きな刺激となりました（入選 4 編、佳作 4 編）。それからの 10 年は、当学会自体の会員の増加は勿論、情報処理関係の学協会ならびに業界の組織、内容の発展は、いちじるしいものがあります。創立 30 周年記念論文に積極的な応募があることを期待しています。

論文応募締切：1989 年 8 月 31 日（木）

選定結果発表：1990 年 5 月 創立 30 周年記念祝典

受賞論文掲載：1990 年 5 月号 情報処理（VOL. 31 NO. 5）「創立 30 周年記念特集号」

受賞論文発表：1990 年秋 第 41 回 全国大会（後期）

(4) 記念出版

30 年にわたる当学会および情報処理の変遷と発展の足跡ならびに展望を「情報処理学会 30 年のあゆみ」として刊行いたします。

また、学会誌“情報処理”で創立 30 周年記念特集号として受賞記念論文を中心に編集刊行いたします。

(5) 情報処理学会“未来像”の策定

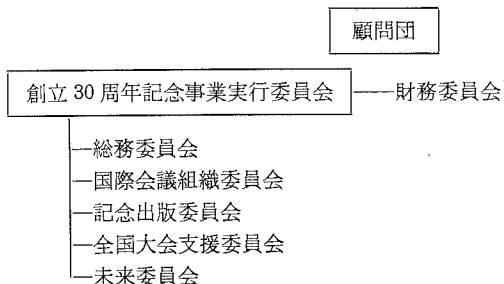
会員へのサービス向上を核としながら、情報処理の総合的な発展をはかるためにはいかにあるべきかの将来展望を明確にし、それを実現するための具体的方策を策定し、関連学協会・産業界への連繫を深めます。また、情報会館を始め、将来学会に望まれる環境条件のあり方についても検討いたします。

(6) 記念祝典

1990 年 4 月 22 日が創立 30 周年記念日ですが、5 月の通常総会開催日に、関係省庁をはじめ、関連学協会ならびに業界の有志のご出席を得て、記念式典、講演会、祝賀会等を行います。

(7) 記念事業推進組織

事業推進のため、情報処理学会創立 30 周年記念事業実行委員会（委員長大野 豊）のもとに、次の委員会を設け、これにあたります。



(8) 記念事業の財務

上記の各事業を推進するため、概算で 2 億 3 千万円の費用が見積られています。

収入見込みとしては、会議参加費等で 7 千 5 百万円、大会および学会誌の通常経費からの振替 3 千万円、企業等からの特別賛助金 1 億 1 千万円ならびに会員からの募金 1 千 5 百万円を計画しております。

特別賛助金については、財務委員会を中心に各関係企業に記念事業の趣意をご説明し、ご協力をお願いしております。

会員の皆さまにも記念事業を成功させるための、募金を要請したいと存じますので、ご協力のほどお願いいたします。（なお、次号に募集要領を掲載いたします。）